

令和4年度 学校評価表(定時制課程)

＜令和4年度の重点目標＞ 1 生徒の出口保障の充実 2 体験的学習の充実およびふさと貢献活動の推進	全体の評価　：・各領域において充実した活動がなされている。
---	-------------------------------

自己評価基準　よくできた→ 4　　できた→ 3　　あまりできなかった→ 2　　できなかった→ 1						兵庫県立赤穂高等学校 定時制課程				
領域	評価の 観点	評価項目	目標	実践目標	成果と課題	令和 4年	令和 3年	令和 2年	改善の方策	学校関係者評価
学校運営	学校開 かれた づくり	魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。	・地域社会や家庭との連携を密にし、魅力ある学校づくりを進める。 ・工夫しながらわかりやすい情報発信に努める。	・外部の様々な機関との連携を図った取組を行う。 ・地域から本校の教育活動への理解を得るために、学校だよりを定期的に作成し、関係各所へ配布(配信)する。 ・学校行事のあるごとにブログ等を通じて常に情報発信を行う。	・学校行事や課外活動、ボランティア活動等の様子を、ブログ、学校通信「赤定だより」で定期的に情報発信することができた。 ・Web上での随時更新の徹底や、スマートフォン用ページの内容充実と使いやすさの向上を図る。	3.6	3.6	3.5	・地域の方々と活動する機会を増やし、交流する中で赤定のさまざまな取り組みをPRし、地域との絆を深める。 ・HPやブログを更新し、赤定の情報をこまめに発信する。また、積極的に報道機関への情報提供を行う。	・情報提供は大切だと思う。 ・昨今のSNSのトラブルに対応した指導がなされている。
	生徒指導	基本的生活習慣を確立する。	・責任感の育成やルールを守り、協調する精神を育てる。地域社会との連携を深める。	・必要に応じて個人面談したり、家庭連絡や家庭訪問等を行い、保護者と連携して生徒の指導にあたる。	・保護者との連携を密に行うことによって、生徒の指導に生かすことができた。 ・個人面談を数多く行うなど、さらに細やかな指導を行うことが必要である。	3.9	3.7	3.4	・保護者面談等を計画的に実施する。 ・保護者との連携を深め、生徒状況を把握する。	・担任とカウンセラーとの連携がなされている。 ・担任が生徒に信頼されていることを感じる。
		社会人としての規範力を育成する。	・SNSの安全な使い方を理解させる。 ・マナー・モラルについて生徒の力で考え、スマホ依存を防止する。	・情報モラル講演会等を実施して、情報モラルについて正しく理解させ、予防する能力や態度を育てる。 ・スマホ依存の防止、SNSの使い方等、生徒会を中心としてルールづくりに取り組む。	・情報モラル講演会等を実施し、情報モラルに対する意識を高めることができた。 ・生徒会を中心に「赤定スマホプロジェクト」を発展させ、スマホを利用するうえで大切にすべき取組みなどを提示した。 ・生徒へ提示した取組みを定着させることと、実状に合わせた改善が必要である。	3.9	3.8	3.5	・講演会等を通して、情報モラルについてスマホ使用上の意識を高める。 ・生徒主体のルールづくり、啓発活動を進めていく。	
		いじめ防止に対する取り組みを行う。	・いじめ防止、未然防止、早期発見、早期対応、相談体制の整備を行う。	・学校いじめ基本方針に基づく取組の点検を行い、生徒の実態に応じた指導を行う。 ・アンケート調査の工夫や生徒、保護者等との情報交換を密にして、いじめの防止に努める。	・学校いじめ基本方針に基づき、生徒の実態に応じて取り組むことができた。 ・いじめはどの学校においてもおこりうるものの認識で取り組むことが必要である。	4.0	3.7	3.7	・生徒が相談しやすい関係づくりを行う。 ・迅速な情報共有、早期対応の体制を構築する。	
		キャンパスカウンセラーの活用を充実させる。	・個人相談をとおして、心に悩みを持つ生徒のサポートを図り、学校生活を充実させる。	・入学時に全員カウンセリング体験を実施し、生徒とカウンセラーの繋がりを作り、相談できる場があることを周知する。 ・教職員研修を実施し、教員の資質の向上を目指す。	・1年生全員にカウンセリング体験を実施することで、カウンセラーとの繋がりが形成できたが、生徒は担任等と良好な関係を築いており、担任等へ相談することが多かった。そのため、継続してカウンセリングを受ける生徒はいなかった。しかしながら、問題の見逃しを防ぐために、専門的な視点は必要である。	3.7	3.5	3.7	継続的な心のケア及び問題の早期発見を目的とし、1年生を対象に毎学期1回カウンセリングを実施する。	
	進路指導	進路指導の充実を図る。	・生徒の能力・適正等を正しく把握して適切な進路指導を行う。 ・平素から自己を見つめ、将来への目標を持ち、早期に進路目標を設定するよう促す。	・進路説明会や外部機関と連携して生徒の進路意識を高める。 ・学年毎に職業体験を実施し、進路を決めていく上での参考とさせる。	・就職活動において早期の動き出しや、応募書類作成がおおむね達成できた。 ・生徒の多様な進路に向けてより一層の情報収集に努める。	3.6	3.2	3.6	・早期から生徒のキャリア意識を高め、情報収集し、進路活動の充実化を図ることで、高卒求人応募のスケジュールに余裕が持てるように指導する。 ・進学指導においては、個々の志望状況に合わせてサポートする。	
	教職員の 資質向上	教職員の意識改革を進める。	・教職員の使命を自覚し、専門性の向上や、指導力の向上に努める。	・教壇に立つ教育者としての自覚を高め、外部の研修会等へも積極的に参加し自己研鑽に努める。 ・公開授業週間を実施し、各教員がテーマを持って資質向上に努めるよう職場風土を醸成する。	・各教員が校内研修等の機会を活用した自己研鑽に努めることができた。 ・公開授業週間を設定することで、各教員がテーマを持って学習指導を行うことができた。 ・担当教科についてだけではなく、学校全体の教育力に関して、各教員が協働によって向上させようとする職場風土の醸成を目指したい。	3.4	3.7	3.3	・継続して適切な内容の校内研修を行う。 ・外部研修会等に参加した際に、校内向けにフィードバックする機会を設け、学校全体の指導力を高める。 ・情報交換会等を通して生徒の実態を的確に把握し、学校全体として個別最適な学びを提供できるよう、授業改善に努める。	
	危機管理体制の整備	安全で安心な学校づくりを進める。	・学校での具体的な危機管理の取組について、保護者や地域の人々の理解を得るとともに地域や関係機関と連携する。	・全日制や地域との連携も考慮し、危機管理マニュアルを定期的に見直す。	・HPやメール配信システム(ライデンスクール)を活用して安全で安心な学校づくりに取り組んだ。 ・全日制や地域と連携した危機管理マニュアルの継続的な見直しが必要である。	3.5	3.3	3.4	・防災士の方々をはじめ地域住民の方々と連携し、より実態に即した危機管理マニュアルの見直しを行う。	

領域	評価の 観点	評価項目	目標	実践目標	成果と課題	令和 4年	令和 3年	令和 2年	改善の方策	学校関係者評価
教育課程	自ら学び 自ら考える 力の育成	創造力を高め、生涯学び 続ける意欲ある生徒を育成 する。	・創造力や自ら考える力を育て、生涯にわたって学び続けることのできる能力や態度を養う。	・各教科において、基礎・基本の充実をめざしたシラバスおよび年間指導計画を作成する。 ・生徒の学習状況を的確に把握し、授業にフィードバックする。	・各教科において年間指導計画を作成し、それに基づいたシラバスを配布した。 ・公開授業週間を設定し、教員同士による相互評価による教科研修を実施することで、授業改善に努めた。 ・生徒による授業評価を行い、目指す生徒像と実態を照らし合わせ、指導方法をよりよいものにしていくことが求められる。	3.7	3.3	3.4	・計画およびその実践から授業内容等の見直しを行い、授業改善を行う。 ・生徒の実態に合わせた授業展開ができるよう、継続して実態把握に努める。 ・「マナトレ」を活用した学習状況の把握を試み、全教職員で共有する。	・熱心な学習指導がなされていて、望ましいと思う。 ・「総合的な探究の時間」の充実が成果から感じられ、素晴らしいと思う。
	個に応じた学習指導の徹底	生徒の多様な個性の伸長を図る。	・授業において、個に応じた丁寧な指導に努める。	・生徒の多様化に対応して、個性の伸長を実現するための授業改善を図り、実践につなげる。	・各教科において、生徒の学習状況の恒常的な把握に努めた。 ・授業改善についての情報共有を進め、学校全体での取組を展開することが必要である。	3.9	3.6	3.3	・他校での実践事例等も参考にし、生徒のニーズに合った授業改善を図る。 ・少人数制やチームティーチングを活用した授業を生徒の実態に合わせて展開する。	
	総合的な探究の時間	教職員の協働体制を確立する。	・生徒のニーズに応じたものや、学年ごとに異なる有意義な探究活動ができるような講座を展開する。	・学校全体として体験学習や探究活動を展開できるように教員間の連携を図る。	・総合的な探究の時間を中心に、全教科で体験学習や探究活動を取り入れている。 ・総合的な探究の時間にスポットを当て、探究活動を進めていくための力をどう伸ばしていくかを学校全体で共有し、実践していくことが必要である。 ・ICT機器(クラウドサービス)を用いたプレゼンテーション資料作成のための教員研修が必要である。	3.7	3.7	3.3	・体験的な学習活動をどう探究的な学習活動につなげていくか、また、設定した目標への達成度を適切に評価するために内容及び方法を体系化し実践していく。 ・生徒が自らの成長をことばにする力を養うとともに、ICT機器を用いてまとめる力を養成する。	
課題教育	防災・安全 教育	地域社会・関係機関と連携を密にした防災訓練を充実させる。	・防災意識を高め、安全対策の徹底をはかり、自己の生命を大切にし、助け合い、共に生きる心を育てる。	・避難訓練、防災教室、職員研修を実施して、生徒や教職員の防災・安全に対する意識を高める。 ・避難所運営、心肺蘇生法などの緊急時に必要となる知識・技能を学び、危機に対応する力を身につける。	・地域防災士の会による防災教室を実施し、災害時の対応力を高めることができた。 ・阪神淡路大震災の記憶を風化させぬよう、1.17当日に学校全体で追悼行事を執り行うことができた。	3.8	3.6	3.2	・危機管理マニュアルを見直し、実践的な防災訓練を実施することで、職員全体で防災意識を高める。 ・災害時に各職員が臨機応変に対応できるように、マニュアルにとられない防災知識に関しても研修等で共有するように努める。	・人権問題は多様性を認めることだと思える活動が多く導入されていて、充実していると思います。
		生徒の実態に即した学校保健計画等を立案・実践する。	・コロナ禍における感染症対策を徹底し、生徒が安心して学校生活を送れるよう努める。	・保健室を保健指導の場としてだけでなく、生徒支援や生徒相談の場としても活用できるよう努める。	・感染症対策として、ほけんだより等で感染症予防について指導を行った。 ・手洗い、手指消毒等、自己健康管理への意識が高まり、感染症が校内で蔓延することを防ぐことができた。 ・保健室を生徒支援や生徒相談の場として活用できた。	3.7	3.3	3.4	・感染症が校内で蔓延しないよう、引き続き感染症対策を徹底する。 ・啓発資料を作成する。	
	人権教育	人権についての基本的な理解を深める。人権学習への意欲を高める。	・学校の教育活動全体をとおして、人権問題解決に向けての意識や生活態度を養う。	・授業や学校行事などを通じて、互いの良さを認め思いやる心を育む。	・授業やLHRの活動の中で、人権に関わる内容を生徒に認識させ、考えさせることができた。 ・学校行事やボランティア活動など多様な機会を通して、より一層人権意識を高める必要がある。	3.8	3.4	3.1	・授業、LHR、学校行事やボランティア活動で、どのような人権感覚を養うかを明確に考え計画的に実施する。 ・学校行事やボランティア活動を通して、学年を越えた結びつきや思いやりも育まれるよう取り組む。	
		地域団体とも連携し、人権意識を高める。	・赤穂市民主促進協議会など地域団体と連携することにより、人権教育の充実を図る。	・地域団体や異校種間で意見交換を行い、学校での人権啓発に関する活動につなげる。	・西播磨地区高等学校人権教育研究協議会の実践記録集にて、本校の取り組みについて紹介した。 ・参考となる他校の実践を本校に取り入れることにより、人権教育の充実を図る必要がある。	3.4	3.3	2.9	・協議会などで異校種間での意見交換を引き続き行っていく。 ・生徒・職員の関心を高められるよう人権に関わる地域行事への参加、標語の応募などを呼びかける。	
	情報教育	情報リテラシーの向上を図る。	・教職員の情報リテラシーの向上を図り、業務の効率化や生徒への指導に生かす。	・ICT機器活用の研修会を実施し、校務や授業での積極的な機器活用を促進する。	・情報機器の取り扱いや情報教育に関する研修会を実施した。 ・ICT機器を活用した授業を効果的に行うための力量を教員一人一人がつける必要がある。	3.6	3.5	3.4	・職員研修会の実施。 ・校内通信ネットワーク等、ICT機器を活用した授業について意識を高める。	・情報科が特にデータサイエンスについて急速に進んでいると感じる。 ・一人ひとりに応じた指導がなされているように思う。
	体験活動	ボランティア活動を推進する。 地域の伝統文化を体験的に学ぶ。	・ボランティア活動や福祉体験を通して、社会貢献の重要性を学ぶとともに、自己有用感を育む。 ・伝統文化に対する理解を深め、豊かな人間性を涵養する。	・赤穂義士祭や清掃活動、福祉体験等、積極的なボランティア活動への参加を促し、地域貢献を行う。 ・地域の伝統文化(赤穂緞通)にふれさせることで地域に生きる自覚を持たせる。	・さまざまなボランティア活動や福祉体験から地域社会への関わりについて考える機会を設定することができた。 ・伝統文化を体験することで地域に対する理解を深め、地域で活躍できる人をより育成する必要がある。	3.8	3.8	3.2	・現在取り入れているさまざまな体験的な活動を今後も継続して取り組ませる。 ・生徒の実態に合わせた内容を充実させ、ふるさと意識の醸成をうながす。	